

海外放送放談

辻川利雄

ニューヨークからの毎朝8時のニュース解説はわれわれの田舎者にとってはたしかに「3日早い」ニュースを提供して呉れる。ただ時間の割に内容が盛沢山なので一寸早口が難点だがゆっくり聞きたい方には1600(1200を0時とし、即ち午後4時の意)(JCT¹)から「書取式」の放送²もあるから之で「耳」を慣されると丁度好い。「アメリカの声」のプログラムはいつも綺麗で小冊子ではあるが実に好い内容が感じられ、その点目の「味覚」もまず満点といえよう。

ただ感度その他連絡をしても梨のつぶてで何ともいってこないのは一寸淋しいが、きっと多忙なのだろう。あれだけ立派なニュース源を持ちながら日本語放送³をして貰えないのは実に惜しい気持がする。

その点BBCは実に鄭重で「候文」の業務照会も多いが色々な面白い手紙や気の利いた週刊紙等送っても呉れるし、日本語放送の内容改善にはどしどしこちらからの連絡を素直に受入れてくれる点は全くSWLとして嬉しい。去年⁴のストックホルムでの湯川博士のノーベル賞授賞式の実感放送は録音板の到着が気象が悪くて3日も遅れたが、同博士のクリスマスの「日本へのメッセージ」と共にまだ耳の底に残っている。共同通信のロンドン支局長が英外務省の特別の好意によって書類等の不備等全く度外視する位にしてストックホルムの式場に参列して録音したという当時の感想につけても、NHKがこの種の放送を1回もやらぬのは何故だろうか。無理は今の世には付きもの、もう一步前進して積極的に世界の放送網と自から進んで結びつく努力がほしい。ロスアンゼルスの水泳世界記録放送⁵と何故同等に扱えなかったのだろうか。あれほど日本国民全体を嬉ばせたニュースももう一步前進して博士の肉声を、次の時代を負う若い者に対する激励の辞を真実に国民の全部に聞かせなかったのは残念だ。

¹Japan Central Time:日本中央時、日本標準時(JSTのこと)。

²'Dictation News'。書き取り用のニュースで、ゆっくり発音し、単語を2回ずつ繰り返した。

³その後、日本語放送を開始したが、ほどなく中止した。

⁴1949(昭和24)年。

⁵1932(昭和7)年、アメリカのロスアンゼルスで開催された第10回夏季オリンピック。この大会で、日本水泳陣は、競泳で5つの金メダルを獲得した。。しかし、当時の放送事情によって、実況生中継が出来ず、アナウンサーが現場で競技の模様をメモして、それを持ち帰ってあたかも目の前で競技が行われているかのように「実感放送」をした。

また BBC に戻ろう , 2015 - 2045(JCT) の極東放送の二ニュースや解説の編集の慎重さは全く敬服の他はない。そのあとの短時間の音楽も気が利いているし音質が良いのにも一驚する。国宝的サー・トーマス・ビーチャム氏指揮する BBC シンフォニー・オーケストラの登場はお手のものだしその後の仏語ニュース , 「イングリッシュ・ハーフアワー」 , ゼネラル海外放送⁶等英国ならではの好番組である。

特に最近では日本聴取者と連絡を密にして更に改善向上に真摯な努力を惜しまぬ所等世界情勢の上からも全く嬉しい。(3月号 Colour Section⁷参照)

ニュースではこの他に「ラジオプレス」として NHK のニュースや新聞でお馴染みのブラザビル(仏領コンゴ) , メルボルン放送が特に異色があるが , ブラザビルニュースはどうも一寸なまりがあるようだしメルボルンニュースは巻舌口調だ。しかし一寸聞けばすぐ耳になれる口調だから却って時々懐しい気もする。

オランダ PCJ , フランス・ラジオ・パリ , トルコ・アンカラ放送 , イタリア・ローマ放送等いずれも割合に感度が良く年間平均した Q.S なので DX ファンの方々にはこれもお馴染みだが , みな第二外国語式のゆったりした正確な英語だから中学時代の書取を憶い出す位 , 耳を慣らしたい方々に特にお勧めしたいと思う。

音楽放送では欧州方面はやはり古典音楽が多い。殊に音質の良い PCJ とスイス・ベルン放送が耳の保養になる。お得意はバッハ , シューベルト , ショパン , ベートーベン作品で質の良くないレコードよりは遥に良い。軽音楽ではやはり南米 SRI , フェノスアイレスの LRY 放送が一番 , ここは「世界一の音楽放送」を目標にして海外放送を始めた位だ。専属の楽団が 52 組 , 指揮者でも一流人が揃っている。昨秋までは 3 時間の内 15 分だけニュースや解説があって殆んど 90% がミュージックアワーだったが , ビッグニュースの^{ふくそう}輻輳と聴取者通信の時間が新設されたために少々減少したようだ。LRY の受信証は特産の毛織物の小旗それに最遠距離だからプロその他の郵便物は全部気をきかせて航空機で送ってくれるなど仲々サービスが良い。どこの国にもラジオ関係者に関する限り戦争に対しての日本への悪感情など微塵もないように感ぜられる。アマチュアでは尚更だから特に SWL の方々に国民外交の実行をお願いしたい。私のところに毎月各国放送関係で送ってくれる書類だけでも一寸目を通せぬ位あり , 殊に PCJ , BBC , OTC は

⁶General Overseas Service:GOS 特定の地域に向けたものでなく , 全世界向けの放送。

⁷『無線と実験』1950 年 3 月号の記事。

新しい種々の文献を惜しげもなく送ってくれる好意は全く嬉しい。英国のテレビ5カ年計画、オランダ・ゾイデルゼーの干潟工事、レオポルドビル市の世界一の熱帯衛生都市建設計画等々その一つ一つが珠玉に感ぜられる。

近距離大電力の放送でソ連以外の電波ではメルボルン放送が最も高感度だが内容は勿論として開始音楽のマチルダ・ワルツ(シロホン)の次のクッカーブラ(濠州かわせみ)の鳴声や時報のあとの鐘(ロンドンの国会議事堂の時鐘?)の音だけでも仲々異国調が感ぜられる。

筆者の友人達の中でこの鐘の音を一度聞いた丈で熱心なSWLになった人が4人もあるし、SW ウオッチで疲れた時などいつもこの鐘をしみじみ聞いて疲れを休める位よいものである。暖冬異変で今年は特に春が早く来そうだがKH層⁸はまだ大した激しい変化がないようだから文中の局などいずれも良好に聴取できる見込みである。ただDX受信には最少限半波長ダブレットアンテナをなるべく高く張ることとスーパーの中間周波トランスの利得感度を余り無理して上げないこととの二つを特におすすめしたい。

PDF化にあたって

本PDFは、

『無線と実験』1950年4月号

を元に作成したものである。

ラジオ関係の古典的な書籍及び雑誌のいくつかを

ラジオ温故知新

<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/index.html>

に、

ラジオの回路図を

ラジオ回路図博物館

<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/radio/radio-circuit.html>

に収録してある。参考にしてほしい。

⁸電離層のこと。ケネリーとヘビサイトが発見したので、KH層とも呼ばれる。